

雄雄の獅子が躍動する舞を保存会が絶やさず継承



稲荷神社奉納獅子楽 金田

稲荷神社の神幸祭で境内と御旅所で奉納されます。神社の古文書によれば宝暦3年(1753)に獅子頭を寄進したとの記述があり、最低でもそのころから数えて約250年以上続く獅子楽だといわれています。安政5年(1858)虚無僧の山本平八という人物が復興を図り、現在、保存会によって継承されています。

区分/無形民俗文化財 所有者/稲荷神社奉納獅子楽保存会 町指定年月日/12年12月25日

祭りや山笠を盛り立てる伝統のみやびな音色



稲荷神社祭囃子 金田

稲荷神社の神幸祭で、山笠に付随して奉納される囃子です。山笠それぞれに囃子方がついて囃子を奏でます。その曲は20数曲と多種にわたり、山笠が動いているときに流す「道囃子」と「停囃子」に分けられます。藩政時代から受け継がれてきたもので、現在、山笠を奉納する地区ごとで保存に努められています。

区分/無形民俗文化財 所有者/稲荷神社祭囃子保存会 町指定年月日/平成12年12月25日

碧巖寺の歴史を詳しく記した寺の表札



碧巖寺考譜 金田

木製の扁額に揮毫され、陰刻により文字が刻まれています。扁額とは神社の鳥居や寺院の本堂にかけられる表札のようなものです。この碧巖寺考譜は、漢文体で寺の縁起、沿革などが記されています。神崎・金田地区の学校教育の祖とされる黒田天麟和尚の業績なども、この扁額の中で触れられています。

区分/有形書跡 所有者/碧巖寺 町指定年月日/平成11年10月5日

武蔵・伊織・主馬など
宮本家とのゆかりを物語る



常立寺旧本堂棟札 神崎

棟札は棟木などに打ち付けられた木の札で、建設の年号や寄付を受けた人などが記されたものです。この棟札では寛保3年(1743)に宮本主馬により旧本堂が再築されたことやその際の大工、世話人などが確認できます。宮本主馬は武蔵の養子・伊織の家系で、常立寺が宮本家とゆかりが深かったことがわかります。

区分/有形民俗文化財 所有者/常立寺 町指定年月日/平成11年10月5日

金田・神崎の学校教育の祖
黒田天麟和尚を門人が讃え



黒田天麟和尚之供養塔 金田

碧巖寺第17代住職・黒田天麟和尚の供養塔です。存命中に門人たちが業績をたたえて建立し、没後供養塔となりました。天麟和尚は、本堂で私塾・昭倫舎を開き、下田川の子弟の教育にあたりました。学制発布に伴い、明治6年に昭倫舎金田小学校(後の金田小)を設立、郷土の学校教育の発展に尽力しました。

区分/有形考古資料 所有者/碧巖寺 町指定年月日/平成11年10月5日

高柳井堰や金田用水路で
干害から村を救った清徳氏



水利功農清徳墓碑 金田

安永2年(1773)に金田村民によって清徳氏の功績をたたえて建立された墓碑。清徳という人物は、数年間、洪水が起きるごとに和山に登り彦山川を観望し、精村に井堰を設け、水路を作ること村民に説きました。金田村の灌漑施設高柳井堰・金田用水路を作り、村民を干害から救ったと伝えられています。

区分/記念物 史跡 所有者/金田第1区行政 町指定年月日/平成8年5月2日

最古の例に挙げられる物語性のある貴重な線刻画



甕片(線刻画) 伊方

この土器は弥生時代中期の甕と考えられ、底部付近に線刻が施されています。この線刻には鹿と人物、そして罌と思われるものが描かれており、当時の狩猟風景を表現したと考えられます。九州ではこのような絵画土器は類例が少なく、物語性のある線刻画としては、最古の例の一つに位置づけられるものです。

区分/有形考古 所有者/福智町 町指定年月日/平成9年5月15日

二面の舶載鏡があらわす弥生時代の繁栄



内行花文鏡 宝珠遺跡② 弁城 伊方

昭和30年に三本松遺跡、昭和62年に宝珠遺跡で各一面の内行花文鏡が出土しています。ともに青銅製の鏡で舶載鏡(大陸から輸入された鏡)と考えられます。青銅製の鏡は権力の象徴として扱われ、伊方丘陵周辺は遺跡が多く残されていることから、かつては人々の生活の中心地として繁栄していたと思われます。

区分/有形考古 所有者/福智町 町指定年月日/平成9年5月15日

近世の人々の暮らしと村の様子を記した



水帳 伊方

水帳とは土地台帳のようなもので、田畑の面積、等級、収穫量、所有者等が記されています。この水帳には田畑だけでなく山野の所有者などの記述もあり、近世の伊方村の様子をうかがい知ることができます。水帳という名前の由来は、古代律令制下の田籍を記した「御図帳」のあて字ではないかと考えられています。

区分/有形書跡 所有者/福智町 町指定年月日/昭和53年4月25日

エドヒガンの母樹的桜
県下最大、最古の希少種



エドヒガン(虎尾桜) 上野

虎尾桜は希少種エドヒガンの桜で、推定樹齢は600年以上、樹高23m、幹周り3.83mで、県下最大、最古といわれています。福智山麓には同種の源平桜や海人ヶ桜などもあります。エドヒガンは木ごとに花の濃さが違うのが特徴ですが、虎尾桜は麓から肉眼で確認できるほど、濃いピンクの花を咲かせます。

区分/天然記念物 所有者/上野区 町指定年月日/平成12年3月31日

多くの犠牲者を出した
享保大飢饉の餓死者を供養



餓死者供養塚 金田

享保17年(1732)から翌年にかけての「享保の大飢饉」の際、金田村で148人、神崎村で100人、南木村で49人の死者が出たと伝えられています。金田村の犠牲者148人は、村民の30%にもおよび、この犠牲者の供養のために塚が建立されました。なお、西日本では96万人が餓死したと言われていています。

区分/記念物 史跡 所有者/碧巖寺 町指定年月日/平成14年3月11日

小笠原藩の筆頭家老・宮本
伊織の祖父の墓と武蔵伝説



小原信利公墓碑 神崎

天正15年(1587)の豊臣秀吉九州出兵の際、香春岳城で戦死した小原信利と妻の墓碑です。小原信利は宮本武蔵の養子・伊織の祖父にあたる人物で、その墓がある常立寺は、宮本伊織らにより、承応3年(1654)に創建されました。この常立寺の境内で、宮本武蔵が剣の道場を開いたという伝説が残されています。

区分/有形考古資料 所有者/常立寺 町指定年月日/平成11年10月5日

旧3町で指定され、福智町に引き継がれた多種にわたる文化財。町指定文化財 13 ガイド

内行花文鏡は宝珠と三本松を個別指定